

共通事項

(総則)

第1条 本工事は国土交通大臣官房営繕部監修「建築工事共通仕様書」、「建築改修工事共通仕様書」、「電気設備工事共通仕様書」、「機械設備工事共通仕様書」による。

(工事の着手)

第2条 工事契約締結後、早期に市監督員と設計施工について打合せを行い、現場を確認のうえ工事を着工すること。なお、打合せ事項については必要に応じて議事録を市監督員に提出すること。

(疑義の解釈)

第3条 本工事は、逗子市財務規則に基づき別途特記仕様書及び添付図面によって行い、設計図面等に定める事項について疑義を生じた場合の解釈は、当該工事を担当する監督職員の指示に従わなければならない。

2 設計図書等で明記していない事項であっても、施工上必要なものがあつた場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

(法令関係の遵守)

第4条 受注者は、工事施工に当たり、工事に関する諸法令及び関係条例等を遵守し、工事の円滑なる進捗を図ると共に、諸法令及び関係法令等の運用適用は受注者の負担と責任において行なうこと。

(施設の保全)

第5条 移設構造物を汚染し、またこれらに損害を与えた時は受注者の責任で復旧しなければならない。

(資格を必要とする作業)

第6条 資格を必要とする作業は、それぞれの資格を有する者が施工しなければならない。

(工事終了後の処理)

第7条 工事が完成した時、受注者は速やかに不要材料及び仮設物を処分もしくは撤去し、使用箇所等を清掃しなければならない。

(安全管理)

第8条 受注者は、工事の施工に当たっては常に細心の注意をはらい、労働安全衛生法（昭和47年6月8日法律第57号）並びに関係法令を遵守し、公衆及び従業員の安全を図らなければならない。

2 工事中は所要の従業員を配し、現場内の整理整頓と安全作業に努めなければならない。

3 重要な工作物に接近して工事を施工する場合は、あらかじめ保安に必要な措置、緊急時の応急措置及び連絡方法について監督職員と協議し、これを遵守しなければならない。

4 火薬、ガソリン等の危険物を使用する場合には、保管及び取扱について関係法令の定めるところに従い、万全の方策を講じなければならない。

5 火薬類を使用し工事を施工する場合は、あらかじめ発注者に使用計画を提出し、発注者の承諾を得なければならない。

6 遠方、山囲、覆土、締切、排水等の仮設及び特に重要物を扱う足場は、堅固な構造としなければならない。

7 工事現場に工事関係者以外の立入を禁止するため、市監督員と協議のうえ、その地域へ適当な柵を設けると共に、立入禁止の表示をしなければならない。

8 豪雨、高潮及び台風等出水の恐れのある時は、受注者は昼夜の別なく所要の人員を現場に待機させると共に、応急措置に対する準備をしておかななければならない。

9 工事現場の秩序を保つと共に、火災、盗難等事故防止に必要な措置を講じなければならない。

10 施工の際は、生徒の安全確保及び学校施設の損傷や近隣住民に迷惑を掛けないう施工しなければならない。

11 騒音・粉じん・振動等が発生する作業は、発注者と協議し、学校生活や施設に影響が出ないよう配慮しなければならない。

(工事写真)

第9条 受注者は、工事中の写真を撮影し、工事着手前、施工中、完成時の工程順に整理編集し、工事完了後写真帳（デジタルカメラ可）を提出すること。

2 工事看板には、部品名、工程、寸法等を記載すること。

3 使用材料、部品納入時及び埋没部は、市監督員の立会のもと撮影すること。

(工事用電力及び工事用水)

第10条 工事用電力及び工事用水等は発注者が無償で支給するが、あらかじめ市監督員に許可を得るものとする。

特記仕様書

1 工事名称

逗子市庁舎LED照明更新工事

2 工事場所

逗子市逗子5丁目2番16号（逗子市役所）

3 工 期

契約日から令和9年3月31日まで

4 工事目的

本工事は、逗子市庁舎の蛍光灯及び非常照明をLED照明に変更するもの。

5 工事内容

逗子市庁舎に設置している蛍光灯をLED照明に改修するとともに、非常照明器具をLED照明対応器具へ交換するもの。なお、地下2階電気室については、非常照明器具の納品のみとし交換は行わないこと。

6 工事箇所

別紙図面のとおり。

なお、別添の「LED照明 更新対象リスト」に記載の「場所」は当時の図面の名称に合わせている。更新する照明灯の場所・台数は「LED照明 更新対象リスト」のとおり。

LED化に必要な結線替え等の箇所は図面のとおり。

7 照明器具（物品）仕様

- (1) 直管LEDランプ設置個所は既存照明器具を使用し、LED化に必要な結線替え等を行うこと。
- (2) 結線替え作業後、安定器の取外しは行わないこと。
- (3) 片側給電の場合、灯具内の結線替え作業を行った灯具には、電源供給口側に電源供給口を示すシールを貼ること。
- (4) 非常照明器具は、LED照明対応器具と交換し既存照明器具は受注者が処分すること。
- (5) 設置する照明器具及び直管LEDランプは、既存照明器具と同等以上の定格光束を有するLED器具を調達すること。
- (6) 設置する照明器具及び直管LEDランプは、日本国内に本社を有するメーカーの製品でかつ、未使用の新品を調達すること。

8 工事計画

- (1) 受注者は、発注者と協議のうえ現地作業日程を取り決めるものとする。
- (2) 本工事は、原則土・日曜日の8時30分から17時までに行うものとする。
- (3) 音の出る作業及び一般の車両を規制するような工事においては、近隣への周知を行うこと。
- (4) 受注者は、施工に関し必要となる諸手続及び工程調整を遅滞なく行い、その都度発注者に報告すること。

9 完成図書

(1) 内容

完成図、実施工程表、検査成績書、納品書、工事写真、その他必要と思われるもの。

(2) 提出部数

2部（インデックス見出し付、ファイル綴込）。

なお、しゅん工図原図はPDF形式の電子データ（CD-ROM）も1部提出すること。

10 工事関係車両

工事関係車両が出入りする際は、あらかじめ発注者と調整のうえ、施設周辺道路及び出入り口にて適宜交通誘導を行い、事故等の無いよう努めること。

11 廃棄物処分

本工事により発生する撤去品は、関係法令に基づき受注者の責任において適正に処分すること。

12 その他

(1) 工事施工に当たり、施設、車両等に損傷を与えた場合は直ちに市監督員に報告を行うと共に、応急措置を行い受注者の責任において原状復旧にあたらなければならない。

(2) その他疑義が生じた場合には、発注者と受注者とで別途協議する。

LED照明 更新対象リスト一覧

(別添)

エリア	場所	既存照明種類	灯式	台数	本数	交換方法	備考	消費W	区分	品名	口金	色
地下2階	書庫	直管蛍光灯40形	2灯式	16	32	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下2階	書庫内移動書架	直管蛍光灯40形	1灯式	43	43	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下2階	脱衣室	直管蛍光灯20形	1灯式	3	3	ランプ交換		5.8	直管形蛍光灯	直管LEDランプ20形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下2階	文書等管理倉庫	直管蛍光灯40形	2灯式	6	12	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下2階	一般倉庫	直管蛍光灯40形	2灯式	6	12	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下2階	厚生会物品庫	直管蛍光灯40形	2灯式	2	4	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下2階	エレベータービット	直管蛍光灯40形	1灯式	1	1	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下2階	自家発電機室	直管蛍光灯40形	2灯式	2	4	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下2階	消火ポンプ室	直管蛍光灯40形	2灯式	1	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下2階	機械室	直管蛍光灯40形	2灯式	16	32	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下2階	機械室	直管蛍光灯40形	1灯式	1	1	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下2階	倉庫	直管蛍光灯40形	1灯式	1	1	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下1階	更衣室 (男)	直管蛍光灯40形	1灯式	4	4	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下1階	更衣室 (女)	直管蛍光灯40形	1灯式	2	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下1階	シューズボックス室	直管蛍光灯40形	1灯式	1	1	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下1階	AD (東西)	直管蛍光灯20形	1灯式	2	2	ランプ交換		5.8	直管形蛍光灯	直管LEDランプ20形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下1階	防災倉庫	直管蛍光灯40形	2灯式	4	8	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下1階	消毒室	直管蛍光灯40形	1灯式	4	4	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下1階	ハロゲンボンベ室	直管蛍光灯40形	1灯式	1	1	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下1階	雨水・排水ポンプ室	直管蛍光灯40形	1灯式	1	1	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下1階	機械搬入口	直管蛍光灯HF32形	2灯式	4	8	ランプ交換	高所	15.8	直管形蛍光灯	高出力 直管LEDランプ32形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
屋上	屋上機械置場	直管蛍光灯40形	1灯式	2	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
屋上	測定室	直管蛍光灯40形	1灯式	2	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
屋上	エレベーター機械室 (東西)	直管蛍光灯40形	1灯式	4	4	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
5階	収納庫	直管蛍光灯40形	1灯式	2	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
5階	AD (東西)	直管蛍光灯20形	1灯式	2	2	ランプ交換		5.8	直管形蛍光灯	直管LEDランプ20形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
5階	物品庫	直管蛍光灯40形	1灯式	3	3	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
4階	AD (東西)	直管蛍光灯20形	1灯式	2	2	ランプ交換		5.8	直管形蛍光灯	直管LEDランプ20形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
4階	収納庫	直管蛍光灯40形	1灯式	2	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
4階	ES	直管蛍光灯20形	1灯式	1	1	ランプ交換		5.8	直管形蛍光灯	直管LEDランプ20形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
4階	録音室	直管蛍光灯40形	2灯式	1	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
4階	倉庫 1	直管蛍光灯40形	1灯式	10	10	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
4階	階段	直管蛍光灯40形	1灯式	2	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
4階	倉庫 2	直管蛍光灯40形	1灯式	2	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
4階	物品庫 (東西)	直管蛍光灯40形	1灯式	2	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
3階	収納庫	直管蛍光灯40形	1灯式	2	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
3階	AD (東西)	直管蛍光灯20形	1灯式	2	2	ランプ交換		5.8	直管形蛍光灯	直管LEDランプ20形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色

3階	物品庫 1	直管蛍光灯40形	2灯式	2	4	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
3階	放送室	直管蛍光灯40形	2灯式	1	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
3階	電話交換機械室	直管蛍光灯40形	2灯式	1	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
3階	物品庫 2	直管蛍光灯40形	1灯式	1	1	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
3階	物品庫 3	直管蛍光灯40形	1灯式	2	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
3階	ES	直管蛍光灯20形	1灯式	1	1	ランプ交換		5.8	直管形蛍光灯	直管LEDランプ20形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
2階	AD (東西)	直管蛍光灯20形	1灯式	2	2	ランプ交換		5.8	直管形蛍光灯	直管LEDランプ20形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
2階	収納庫	直管蛍光灯40形	1灯式	2	2	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
2階	ES	直管蛍光灯20形	1灯式	1	1	ランプ交換		5.8	直管形蛍光灯	直管LEDランプ20形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
2階	更衣室	直管蛍光灯40形	1灯式	6	6	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
2階	物品庫	直管蛍光灯40形	1灯式	8	8	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
1階	AD (東西)	直管蛍光灯20形	1灯式	2	2	ランプ交換		5.8	直管形蛍光灯	直管LEDランプ20形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
1階	物品庫	直管蛍光灯40形	2灯式	2	4	ランプ交換		11	直管形蛍光灯	直管LEDランプ40形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
1階	ES	直管蛍光灯20形	1灯式	1	1	ランプ交換		5.8	直管形蛍光灯	直管LEDランプ20形(口金回転:電源内蔵:片側給電)	G13	昼白色
地下2階	オイルタンク置場	直管蛍光灯40形	2灯式	1	2	器具交換	防爆仕様	47.8	ベースタイト	LED器具耐圧防爆器具	-	昼白色
地下2階	中央監視盤室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
地下2階	庁舎管理要員室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
地下2階	自家発電機室	笠つき40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換		32.2	非常灯	笠付タイプLED非常用照明器具 電源別置形	-	昼白色
地下2階	消火ポンプ室	笠つき40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換		32.2	非常灯	笠付タイプLED非常用照明器具 電源別置形	-	昼白色
地下2階	電気室	笠つき40形・非常灯電源別置	2灯式	2	4	器具交換		32.2	非常灯	笠付タイプLED非常用照明器具 電源別置形	-	昼白色
地下2階	機械室	笠つき40形・非常灯電源別置	2灯式	4	8	器具交換		32.2	非常灯	笠付タイプLED非常用照明器具 電源別置形	-	昼白色
地下1階	庁舎管理室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
地下1階	駐車場	笠つき40形・非常灯電源別置	2灯式	20	40	器具交換		32.2	非常灯	笠付タイプLED非常用照明器具 電源別置形	-	昼白色
地下1階	運転手控室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	2	4	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具		昼白色
5階	第9会議室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	3	6	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
5階	選管委員事務局・選管委員室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	6	12	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
5階	監査委員事務局	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	3	6	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
5階	教育委員室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
5階	第10会議室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	2	4	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
5階	監査委員室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
5階	事務室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	7	14	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
4階	録音室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
4階	印刷室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
4階	議会事務局	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	4	8	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
4階	図書室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	2	4	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	医務室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	事務室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	12	24	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	応接室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	秘書課	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	2	4	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	管財課	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	4	8	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色

3階	放送室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	電話交換機械室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	電算室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	2	4	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	電話交換室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	控室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	第2会議室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	3	6	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	防災無線室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	第3会議室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	3	6	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	印刷室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	1	2	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	第4会議室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	3	6	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	行政資料室・図書室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	2	4	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
3階	記者クラブ	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	2	4	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
2階	第1会議室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	4	8	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
2階	事務室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	23	46	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
1階	事務室	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	2	4	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
1階	事務室・相談室1・2	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	16	32	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
1階	税務課	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	6	12	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
1階	会計課・金融機関	埋込型40形・非常灯電源別置	2灯式	2	4	器具交換	W300で想定	32.2	非常灯	ベースライト電源別置形(埋込タイプ) 非常用照明器具	-	昼白色
合計				353	576							

【ランプ交換箇所】

直管LEDランプ40形 231本

直管LEDランプ32形 8本

直管LEDランプ20形 19本

【非常照明器具交換箇所】

埋め込み型40形2式電源別置き形 130台

笠つき40形2式電源別置形 28台

防爆照明器具 1個

建設副産物に係る特記仕様書

本特記仕様書は、建設工事に伴い副次的に得られる物品についての取扱い及び建設副産物実態調査に関する事項を定めるものであり、逗子市が発注する工事に適用する。

I. 総則

1、用語の定義

本特記仕様書において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- | | |
|--------------------|---|
| (1) 建設副産物
実態調査 | 建設工事に伴って発生するコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生土などの副産物の発生量や再資源化（リサイクル）の実態を把握することを目的とした統計調査。 |
| (2) コブリス・プラス | 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（以下、「建設リサイクル法」という。）や各種法令に基づく「建設副産物」の搬出入計画、実施結果の報告をオンラインで一元管理できる Web システム。 |
| (3) 建設工事 | 土木建築に関する工事をいう。 |
| (4) 建設副産物 | 建設工事に伴い副次的に得られた物品をいう。 |
| (5) 建設廃棄物 | 建設副産物のうち廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下「廃掃法」という。）の廃棄物に該当するものをいう。 |
| (6) 建設資材 | 土木建築に関する工事に使用する資材をいう。 |
| (7) 建設資材廃棄物 | 建設資材が廃掃法上の廃棄物となったものをいう。 |
| (8) 建築物等 | 建築物その他の工作物をいう。 |
| (9) 解体工事 | 建築物にあっては、当該建築物のうち構造耐力上主要な部分の全部又は一部を取り壊す工事をいい、建築物以外の工作物にあっては、当該工作物の全部又は一部を取り壊す工事をいう。 |
| (10) 新築工事等 | 建築物等の新築その他の解体工事以外の建設工事をいう。 |
| (11) 分別解体等 | ア、解体工事の場合は、建築物等に用いられた建設資材に係る建設資材廃棄物をその種類ごとに分別しつつ当該工事を計画的に施工する行為をいう。
イ、新築工事等の場合は、当該工事に伴い副次的に生じる建設資材廃棄物をその種類ごとに分別しつつ当該工事を施工する行為をいう。 |
| (12) 再資源化 | ア、分別解体等に伴って生じた建設資材廃棄物について、資材又は原材料として利用することができる状態にすること。
イ、分別解体等に伴って生じた建設資材廃棄物であって、燃焼の用に供することができるもの又はその可能性のあるものについて、熱を得ることに利用することができる状態にすること。 |
| (13) 対象建設工事 | 以下に該当する工事という。
・床面積の合計が 80 ㎡以上となる建築物の解体工事
・床面積の合計が 500 ㎡以上となる建築物の新築・増築工事
・請負代金の額が 1 億円以上となる建築物の修繕・模様替等工事（リフォーム等）
・請負代金の額が 500 万円以上となる建築物以外の工作物の工事（土木工事等） |
| (14) 特定建設資材 | コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト・コンクリートをいう。 |
| (15) 特定建設資材廃棄物 | 特定建設資材が廃棄物となったものをいう。 |
| (16) 建設発生木材等 | 建設工事（工作物の新築、改築又は除去に係るものに限る。）に伴って副次的に得られた解体木くず、伐木材、伐根材その他の木材が廃棄物になったものをいう。 |
| (17) 再生資源利用計画（実施）書 | 建設資材を工事現場に「搬入」して利用する場合に作成。工事着手前に「計画書」を、工事完了後に「実施書」を作成し、監督員へ提出。 |

- (18) 再生資源利用促進 建設副産物を現場外へ「搬出」する場合に作成。
計画（実施）書 工事着手前に「計画書」を、工事完了後に「実施書」を作成し、監督員へ提出。

II. 建設廃棄物の取扱いに関する事項

建設工事の施工にあたっては、まず建設副産物の発生抑制に努め、発生したものについては再使用、再生利用を徹底し、そして熱回収が可能なものは熱回収を行うことを基本として取り組むこととし、このための施工方法及び建設資材の選択等については積極的に提案すること。

1、施工前に取り組む事項

建設副産物の発生抑制、分別解体等、再資源化等の中心的役割を担うものとして、建設業法、建設リサイクル法その他の法令を遵守するとともに、監督員との連絡調整、管理及び施工体制の整備等を行うこと。

《管理及び施工体制の整備》

- (1) 工事現場における建設副産物対策の責任者を明確にすること。
- (2) 請負代金の額が 100 万円以上の場合には、次の事項を行うこと。
 - ア、次項Ⅲ. に基づきコブリス・プラスに工事情報を登録すること。
 - イ、コブリス・プラスから出力する等をして、「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を作成し、施工計画書に添付するとともに、監督員に提出して説明すること。
 - ウ、「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」は、公衆の見えやすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）すること。
- (3) 建設発生土を工事現場から搬出する建設工事を施工する場合には、資源の有効な利用の促進に関する法律（以下、「資源有効利用促進法」という。）に規定する「確認結果票」を作成し、上記イ及びウと同様に行うこと。
- (4) 対象建設工事においては、契約前に発注者に提出した「説明書」を施工計画書に添付すること。
- (5) 「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」の内容については、現場担当者の教育、協力業者に対する周知徹底と明確な指導を行うこと。

《下請契約》

- (6) 工事の一部を下請発注し、生じる建設廃棄物を処理委託する場合は個別に直接処理委託契約をすること。
- (7) 分別解体等及び建設資材廃棄物の再資源化等に要する費用の適正な負担に努めること。
- (8) 対象建設工事にあつては、発注者に提出した「説明書」の内容を下請負人に告げるとともに、分別解体等の計画等に沿った施工、特定建設資材廃棄物の再資源化について指導を徹底すること。
- (9) 対象建設工事の下請契約には、建設業法による事項の他、分別解体等の方法、解体工事に要する費用、再資源化等をするための施設の名称及び所在地並びに再資源化等に要する費用を記載すること。
- (10) 解体工事を下請けさせる場合は、建設業法に基づく土木工事業、建築工事業又は解体工事業に係る許可業者(※)又は、建設リサイクル法に基づく解体工事業の登録業者に発注すること。ただし、解体工事業登録業者は請け負うことができる工事の規模に制限があるので注意すること。

《事前調査等》

- (11) 対象建設工事においては、建設工事の着手に先立ち対象建築物等及びその周辺の状況、作業場所の状況、搬出経路の状況、残存物品の有無、付着物の有無等の調査を行うこと。
- (12) 調査結果に基づき、作業場所及び搬出経路の確保、残存物品の搬出や付着物の除去など適正な工事の実施を行うための措置を講ずること。

《再生品の利用》

- (13) 建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材について、利用用途に応じた品質等を考慮した上で、次の事例を参考とし、可能な限り利用すること。
 - ア、道路等の舗装の路盤材、建築物の砂利・砂・割り石等の材料は、原則として、神奈川県が

作成している「コンクリート塊等の処理及び建設リサイクル資材に関する事務取扱要領」に基づくコンクリート塊等処理指定工場から再生砕石等を調達すること。ただし、再生砂

(RC-10)の利用に当たっては、製造者側から試験結果報告書入手し六価クロムに係る環境基準の適合確認をした上で、監督員に報告書を提出し、確認を受けることとする。

なお、受注した工事において再生砕石等を使用する場合は、再生資源利用計画書を添付した施工計画書に当該指定工場の材料試験成績書を添えて、監督員に提出すること。

イ、建築工事の内装材等及び道路舗装材には、パーティクルボードや再生加熱アスファルト混合物等の利用に努めること。

ウ、その他、コンクリート型枠材としてのパーティクルボード（ストランドボード）エンジニアードウッド利用、法面の緑化材、雑草防止材等としての再生木質マルチング材等の利用を積極的に提案すること。

2、施工に関する事項

分別解体等及び建設資材廃棄物の処理等の過程においては、廃棄物処理法、大気汚染防止法、労働安全衛生法、神奈川県生活環境の保全等に関する条例等の関係法令を遵守するとともに、アスベスト、CCA木材、フロン類、非飛散性アスベスト、PCB等の取扱いには十分注意し、有害物質等の発生抑制及び周辺環境への影響の防止を図ること。

《発生抑制》

(1) 端材の発生が抑制される施工方法の採用及び建設資材の選択等について、次の事例を参考に、積極的な提案を行うこと。

ア、解体時において再使用が容易に行える施工方法の採用

イ、耐久性の高い建築物等の建築等

ウ、使用済コンクリート型枠の再使用

エ、コンクリート塊及びアスファルト・コンクリート塊の現場内破砕による路盤材等への再利用

オ、建設汚泥の現場内での脱水、固化等して盛土材等への再利用

《分別解体等》

(2) 建設業者にあつては主任技術者（監理技術者）、解体工事業者にあつては技術管理者を設置するとともに、工事の現場に建設業の許可票又は、解体工事業者登録票を掲げること。

(3) 建設副産物を、次の区分に留意して、種類ごとに分別しつつ工事を施工するよう努めること。

ア、建設廃棄物と建設発生土

イ、一般廃棄物（飲料の空缶や弁当がら、剪定枝葉等）と産業廃棄物（伐木材・伐根材等）

ウ、特別管理産業廃棄物（飛散性アスベスト廃棄物等）と再資源化できる産業廃棄物

エ、安定型産業廃棄物（がれき類、廃プラスチック類、ガラスくず及び陶磁器くず、ゴムくず等）と管理型産業廃棄物（燃え殻、木くず、廃石膏ボード等）

(4) 対象建設工事においては、分別解体等の計画等に定める、工事工程の順序、当該工程ごとの作業内容及び分別解体等の方法により、現場において、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材をその種類ごとに確実に分別しつつ施工すること。

《再資源化等》

(5) コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材等、建設発生土は、再生資源利用促進計画書に基づき、再資源化施設等に搬入するとともに、再生資源の活用に努めること。

(6) コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊は、原則として神奈川県のコンクリート塊等処理指定工場へ搬入すること。

その際には、当該指定工場に搬出することを明記した再生資源利用促進計画書を添付した施工計画書を監督員に提出するなど、所定の手続きを取ること。

(7) 建設発生木材等は、原則として神奈川県の指定事業者の指定施設へ搬入すること。

その際には、当該指定事業者へ搬出することを明記した再生資源利用促進計画書を添付した施工計画書を監督員に提出するなど、所定の手続きを取ること。

(8) 土砂を搬入した場合には、速やかに資源有効利用促進法に規定する「受領書」を搬入元の受注者等に交付すること。

- (9) その他の建設廃棄物（特定建設資材廃棄物以外の廃棄物、対象建設工事でない工事による建設廃棄物）についても、可能な限り分別解体等を実施し、再資源化等に努めること。

《適正処理》

- (10) 廃棄物を処理する場合には、受注者は、排出事業者として自らの責任において、廃掃法等関係法令に基づき、可能な限り現場で減量化した後に適正に処理すること。
- (11) 廃棄物の処理を委託する場合には次の事項に留意すること。
- ア、運搬と処分についてそれぞれの許可業者と各々委託契約すること。また、吹き付けアスベスト除去工事等に伴い発生する飛散性アスベスト廃棄物等の特別管理産業廃棄物はその専門業者に委託すること。
- イ、適正な委託契約を行わない状況で、受託者が不法投棄等を行った時には、委託基準違反として委託者にも責任が及ぶことになるため、適正な委託費用をもって適切な委託契約を行い、併せて契約内容を確実に履行するよう関係者を指導監督すること。
- ウ、産業廃棄物の処理を委託する場合には、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付し、最終処分（再生含む）が完了したことを確認すること。

3、施工の完了後に関する事項

- (1) 「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を作成した工事にあつては、産業廃棄物管理票（マニフェスト）と照合した上で実施状況を記録し、コブリス・プラスから出力する等をして、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」を作成し、監督員に提出するとともに、その内容を報告すること。
- (2) 「再生資源利用計画（実施）書」、「再生資源利用促進計画（実施）書」及び確認結果票は、工事完成日から5年間保存すること。
- (3) 対象建設工事においては、産業廃棄物管理票（マニフェスト）と照合して、特定建設資材廃棄物の再資源化が完了したことを確認したときは、速やかに「再資源化等報告書」を監督員に提出するとともに、再資源化等の実施状況に関する記録を作成し、保存すること。
- (4) 建設工事で発生したコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊については、当該工事で発生したコンクリート塊等の処理指定工場への搬出完了後、速やかにコンクリート塊等搬入完了報告書に指定工場の証明を受けて監督員に報告すること。
- (5) 建設工事で発生した建設発生木材等については、神奈川県が作成している「建設発生木材等の再資源化に関する事務取扱要領」に基づき、建設発生木材等の指定施設への搬出完了後、速やかに建設発生木材等搬入完了報告書に指定施設の証明を受けて監督員に報告すること。

上記(1)から(5)の書類は、完成検査時の確認事項とするので、契約工期限内に提出すること。

Ⅲ. 建設副産物実態調査に関する事項

再生資源利用量及び建設副産物についての発生量の実態把握について定める。

- 1、受注者は、建設資材利用量の大小や有無及び建設副産物発生量・搬出量の大小や有無にかかわらず、当該年度に終了した最終契約額が 100 万円以上（税込）の工事は、次項の建設副産物実態調査作業手順に基づき登録する。ただし、複数年度にまたがる債務工事等の工事額は、当該年度の年割り額を入力し、工事内容は当該年度分の資材利用量、建設副産物発生量・搬出量のみを入力する。なお、表 1 に示す建設資材の搬入又は建設副産物の搬出が全くない場合は、県による調査の対象外となるためコブリス・プラスへの登録は不要となるが、約 5 年に一度の国による調査（センサス）が実施される場合は、例外なく最終契約額が 100 万円以上の工事を登録する。

本調査の対象品目は、表 1 のとおりである。

表 1 調査対象品目

対象	調査対象品目	備考
搬入する 建設資材	コンクリート	
	コンクリート及び鉄から成る建設資材	
	木材	
	アスファルト・コンクリート	
	土砂	
	碎石	
	塩化ビニル管・継手	
	石膏ボード	
	その他の建設資材	
搬出する 建設副産物	コンクリート塊	
	建設発生木材 A（柱、ボードなどの木製資材が廃棄物となったもの）	建設発生木材等のうち、解体木くず、新築端材木くず等が該当する。
	アスファルト・コンクリート塊	
	その他がれき類	
	建設発生木材 B（立木、除根材などが廃棄物となったもの）	建設発生木材等のうち、建設工事（工作物の新築、改築又は除去に係るものに限る。）に伴って副次的に得られる伐木材、伐根材が該当する。
	建設汚泥	
	混合状態の廃棄物（建設混合廃棄物）	現場へ搬出する状態で判断し、発生と搬出の間に分別された場合には、分別後の品目が発生したものとみなす。
	金属くず	
	廃塩化ビニル管・継手	
	廃プラスチック（廃塩化ビニル管・継手を除く）	
	廃石膏ボード	
	紙くず	
	アスベスト（飛散性）	
	その他の分別された廃棄物	
	第一種～第四種建設発生土及び浚渫土（建設汚泥を除く）	

2、建設副産物実態調査のコブリス・プラスの作業手順は、次のとおりとし、受注者が行うものとする。

- (1) 一般財団法人日本建設情報総合センターのホームページ
<http://www.fkplus.jacic.or.jp/>から
からコブリス・プラスにログインする。
システムの操作方法については、「トップページ」内の「コブリス・プラスでできること（動画）」、「コブリス・プラスの使い方」ページ内の「民間企業の方へ」「■工事の受注者の方へ」（1）及び、「■受注者向け（動画）」を参照する。
- (2) 当初契約時点でのデータを入力する。データ入力の際、データチェック結果にて「確認が必要な事項」がある場合は、修正の要否を確認し、修正が完了したデータをコブリス・プラス上で監督員へ提出する。（監督員からコブリス・プラスで修正指示がある場合（提出状況欄が「問い合わせあり」の場合）は修正登録をする。）
- (3) 「再生資源利用計画書、再生資源利用促進計画書のダウンロード」から、当該様式（計画）を印刷し、監督員に提出する。
- (4) 工事完成時に「再生資源利用実施書、再生資源利用促進実施書」（最終データに修正）を作成する。データチェック結果にて「確認が必要な事項」がある場合は、修正の要否を確認し、修正が完了したデータをコブリス・プラス上で監督員へ提出する。（監督員からコブリス・プラスで修正指示がある場合（提出状況欄が「問い合わせあり」の場合）は修正登録をする。）
- (5) 「再生資源利用実施書、再生資源利用促進実施書のダウンロード」から、当該様式（実施）を印刷し、監督員に提出する。
- (6) 工事検索画面から当該工事を検索し、「データ登録済み確認書」を印刷し、修正を要するエラーが出ていないことを確認の上、監督員に提出する。

3、データ入力上の留意点

- (1) 建設発生土の搬出がある場合は、「公共建設発生土処理に係る特記仕様書」を参照すること。
- (2) チェック結果及び「データ登録済み確認書」のチェック結果で確認が必要な事項に下記の項目がある場合は修正する。

9.レンジオーバー

（発生箇所：工事概要）

請負金額の単位が「万円」であることを再確認し、桁間違いをしていないか確認のうえ、修正登録。

19.不整合

（発生箇所：様式1 土砂、様式2 建設発生土）

「様式1の土砂（現場内利用量）」と「様式2の建設発生土（現場内利用量）」の両方に設計書に対応した数値を修正登録。

（発生箇所：様式1 砕石、様式2 コンクリート、アスファルト・コンクリート）

「様式1の砕石（現場内利用量）」＝「様式2のコンクリート、アスファルト・コンクリート（現場内利用量）」となるように単位換算をした数値で修正登録。

25.リサイクル率対象外

（発生箇所：様式2 コンクリート、様式2 アスファルト・コンクリート）

原則として、搬出先は県土整備局のコンクリート塊等処理指定工場（再資源化工場）となるため修正登録。

（発生箇所：様式2 建設発生木材 A、B）

原則として、搬出先は県土整備局の指定事業者の指定施設（再資源化施設）となるため修正登録。

（発生箇所：様式2 建設発生土（第一種～第四種、浚渫土））

原則として、搬出先は県指定受入地となるため修正登録。